

モユク・カムイ



モユク・カムイ (アイヌ語でエゾタヌキ)

9月6日(土)から今年生まれの子タヌキを
展示しました。

かわいい姿に人気集中です。

山は秋。

そろそろエゾタヌキたちは冬ごもりの準備にい
そがしくなるでしょう。

NO.
6
1986

私たちのすむ北海道には、まだ多くの自然が残されています。そこには大きなヒグマから、溪流の石の下にすむカゲロウの幼虫まで、さまざまな生きものがそれぞれの形で生活しています。ゾウやキリンなどの動物に比べると、目立たない地味な動物たちです。でも、北海道の自然にとって、とても大切な仲間たちなのです。

旭山動物園では、今年から新しく、私たちのまわりで生活している小動物や小鳥たちの展示をいたしました。ここでみることのできる動物たちは、けがや病気で旭山動物園に保護された鳥やけものと、その子どもたちです。

宗谷海峡
八田線
北海道にすんでいる動物たちは.....
津軽海峡
ブラキストン線

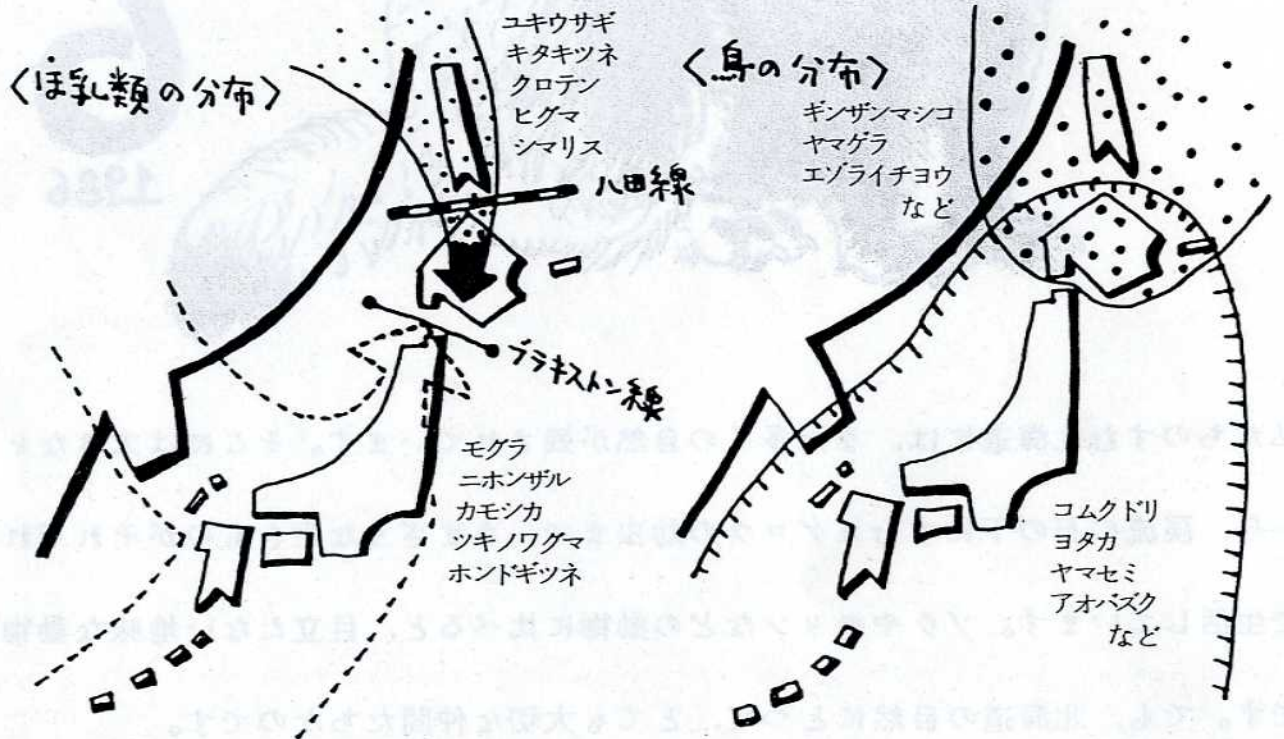


ほ乳類(けもの)

北海道にすむほ乳類は、ヒグマ、クロテン、ユキウサギ、シマリスなど、アジア大陸の北方に広く分布しているものと同じ動物で、その多くは本州以南では見られません。エゾシカ、キタキツネなども本州産のものとは違った種類の動物です。また、本州にすんでいて、北海道では見られない動物も多くいます。ツキノワグマ、カモシカ、ニホンザル、ムササビなどがそうです。

鳥類

北海道で見られる鳥類のうち、ギンザンマシコ、ハシブトガラ、ヤマゲラ、エゾライチョウなど35種の鳥は、北海道を分布の南限としています。また、コムドリ、ヨタカ、ヤマセミ、アオバズクなど44種の鳥は、北海道を分布の北限としています。このように北海道の鳥類は、北からの鳥たちと、南からの鳥たちが混り合つて分布している所と考えられます。



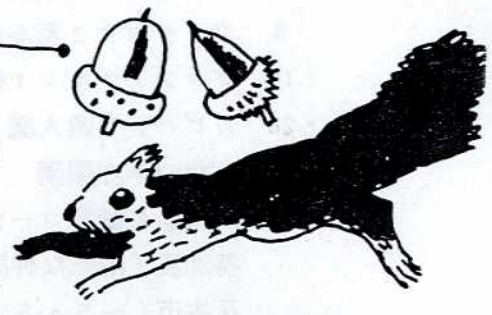
「ブラキストン線」と「八田線」

動物が移動するとき、海はとても大きな障害物となります。ですから、海は動物の分布の境界線となり、津軽海峡と宗谷海峡は動物地理学上、それぞれ「ブラキストン線」「八田線」と呼ばれています。

エゾリスがいっぱいだ



エゾリス繁殖大作戦

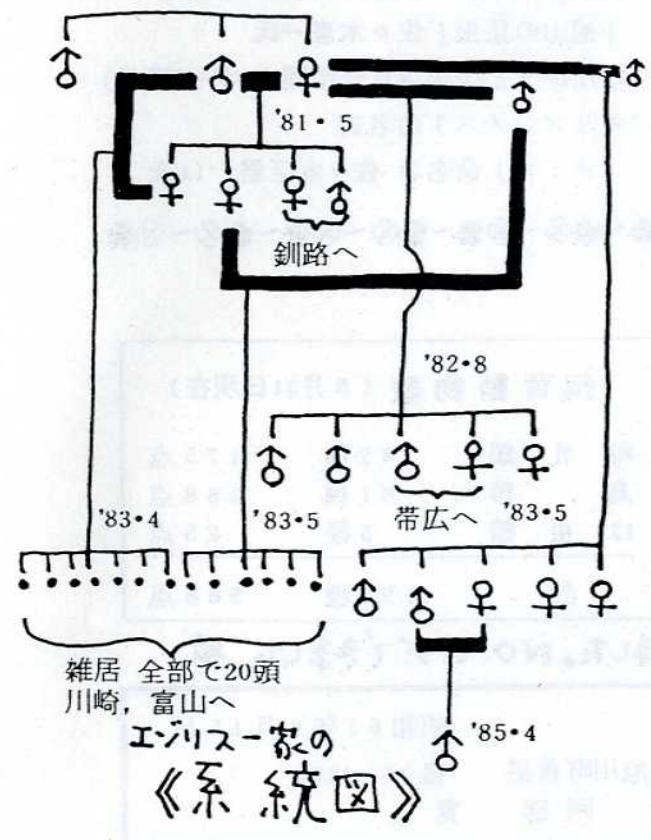


エゾリスは北海道にすむ大きなリスです。旭山動物園では長い間エゾリスを飼育してきましたが、5年前の1981年初めて4頭の子リスが生まれ育ちました。それ以来毎年たくさん生まれ、今では30頭以上の大家族になりました。全国の動物園からもエゾリスを飼育してみたい、という話があり、おびひろ動物園や富山市ファミリーパークなどへいつたものもいます。昨年川崎市夢見ヶ崎動物公園へいつたエゾリスは子供をたくさんふやし、東京都上野動物園や井の頭自然文化園でその子リス達は飼われています。とてもうれしい話ですね。ではここで、エゾリスの繁殖についてお話をしてみましょう。

エゾリスの発情期は冬、2月頃に始まります。雄は睪丸こうがんがふくれて目立つようになりますと、雌を追いかけ始め、かたくしまつた雪の上を、数頭のエゾリスが追いかけつこをするのをよく見かけます。4月末、4~6頭の子供を産みます。母親の乳房が大きくなるのでわかります。子リスは毛もなく、目も閉じています。この頃に雄を別居させます。母リスはだんだん巣の中にいる時間

が長くなり、ほとんど姿を見せません。6月初め、目が開らき、毛もはえてかわいい子リスが巣から顔を見せ始めます。7月、母親くらいに大きくなり、ヒマワリなどを食べますが、クルミはまだ食べられません。この頃でもまだ巣の中が大好きみたいです。秋、ようやく1人前になります。

今年から6頭のエゾリスが展示されています。皆ここで生まれ育つたリス達です。元気に走りまわっていますよ。(牧田)

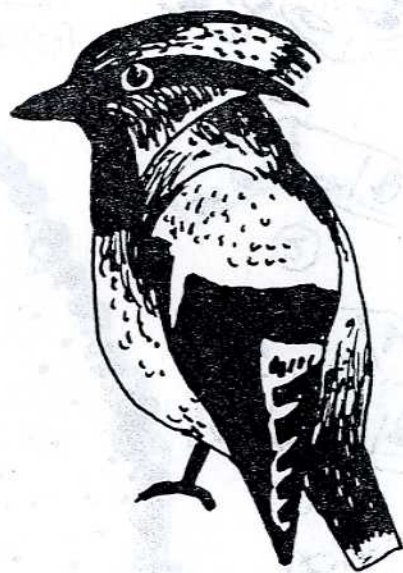


雑居 全部で20頭
川崎、富山へ

エゾリス-家の
《系統図》

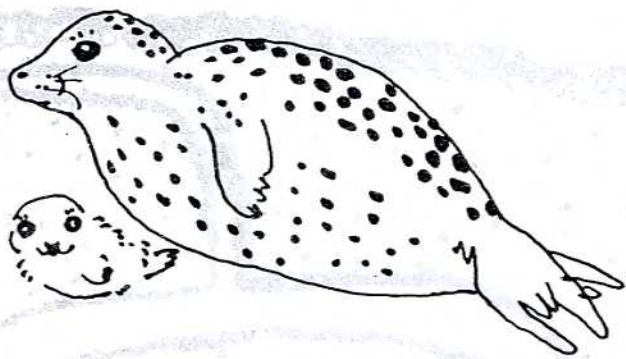


北海道のどうぶつたち



旭山動物園には北海道にすむ動物たち34種類、136点が展示されています。どの動物も私たちのまわりで生活しているものたちです。一度ゆつくりと北海道の動物を見てみませんか。

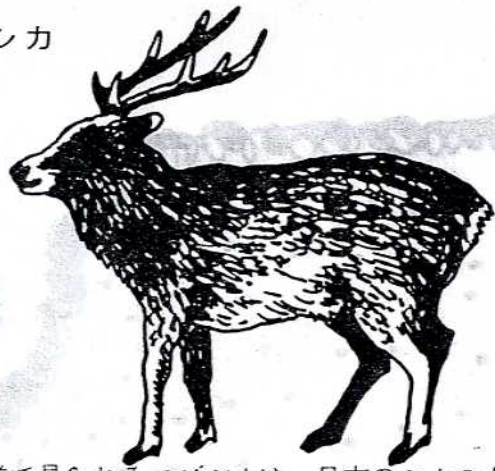
㉔ゴマフアザラシ



ゴマフアザラシは北半球の北方海域に広く分布しています。海上生活に適応し、足はヒレのように進化しています。春早く流氷の上で生まれる子は、全身まつ白な産毛で被われており、黒い大きな目が、ぬいぐるみのようなかわいらしさです。旭山動物園では、1986年4月日に1頭生まれ、元気に育っています。

北海道ではこの他にワモンアザラシ、クラカケアザラシ、ゼニガタアザラシなどが見られますが、ゼニガタアザラシは北海道沿岸の岩の上で出産する、ただ一種のアザラシで、動物学上貴重な存在とされ、近年、特に保護の必要性が訴えられています。

㉓エゾシカ



北海道で見られるエゾシカは、日本のシカの中では最大で、体重は100kg以上にもなります。日中は、雑木林などで休み、夕方と早朝に草原へ出てきて草や木の葉を食べます。

角はオスにしかありません。毎年春になると根もとから脱落し、その後また新しい角がはえてきます。5歳位になると先が4本に枝分かれした、りつばな角になります。

5~6月に1頭の子を生みます。シカの子は生まれた時、すでに毛がはえていて目も開いています。木もれ日の中の子ジカの白い斑点模様はすばらしいカモフラージュになっています。

㉒ヒグマ

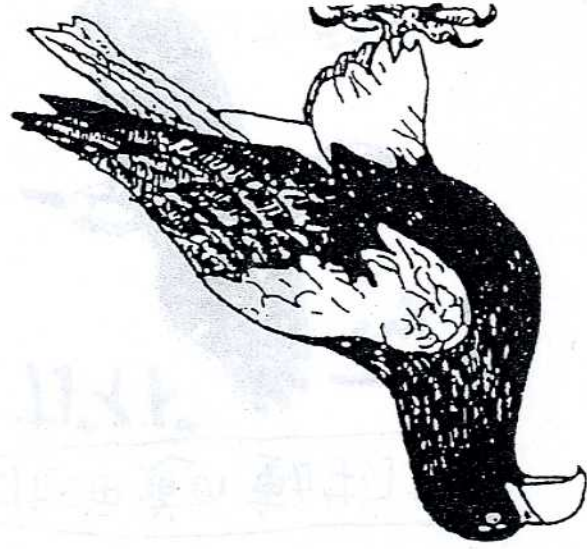


全長が2m以上、体重300kgをこすヒグマは日本最大の陸上動物です。ヒグマは北アメリカ、ヨーロッパからアジアの北部にかけて分布しており、日本では北海道にその亜種であるエゾヒグマがすんでいます。雑食性で、コクワ、ヤマブドウなどの木の実や、草や木の芽、根や、ハチ、アリの幼虫、サケなどの川魚などを食べます。夏は主に高山で、春と秋は低い山へ下りてきて生活します。冬は、木の株や岩の下などの穴で越冬し、メスはこの間に1~3頭の子を生みます。

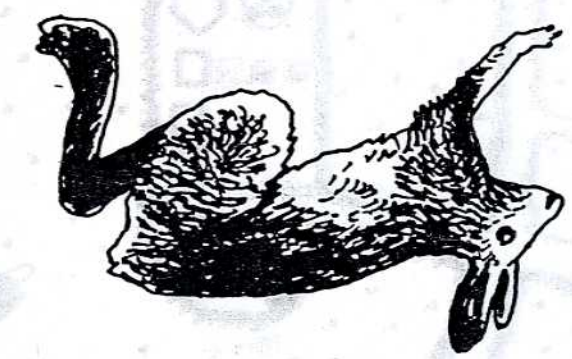
旭山動物園のヒグマは、オス3歳(羽幌町)メス19歳(朝日町)です。

するといくちバツとツツメを持つツシ・クマカの仲間、北海道に20種が分布しています。

ここでは、オオウシ・オシロウシ・クマカといつた北海道を代表する大型のツシ・クマカを展示しています。オオウシ・オシロウシは、海ワシの仲間、主に魚をとりて食べています。クマカは森や山にすみ、エキウサギやエゾライチョウなど鳥やけものを捕えて食べます。旭川近郊にもクマカがすんでいて繁殖も確認されています。



㉑オオウシ・クマカ



樹上生活をしているリスで、木のほらなどに巣を作り、冬眠はしません。果実、種子などを食べ、特にクルミは好物です。その他昆虫なども食べます。朝方と夕方によく活動し、昼間は巣の中で休んでいます。

旭山動物園で毎年たくさんのエゾリスが生れており、全国各地の動物園で多くの方がたに親しまれております。

森林や草原で生活しているウサギで、カイウサギ(原種はアノウサギ)や本州にすむノウサギとは別の種類です。

エキウサギは夏毛が茶色、冬毛が耳の先端をのぞいて純白になることでよく見られています。この毛色の変化は日照時間(日の長さ)の変化によって決定されています。

㉒エキウサギ

冬鳥として旭川をおとす美しい鳥です。群をつくり、アノカアノなどの実を食べるのをよく見ることが出来ます。昭和53年8月に「旭川市民の鳥」に指定されました。姿ほかりでなく、鈴をふるような声も美しい鳥です。

ホシガラス

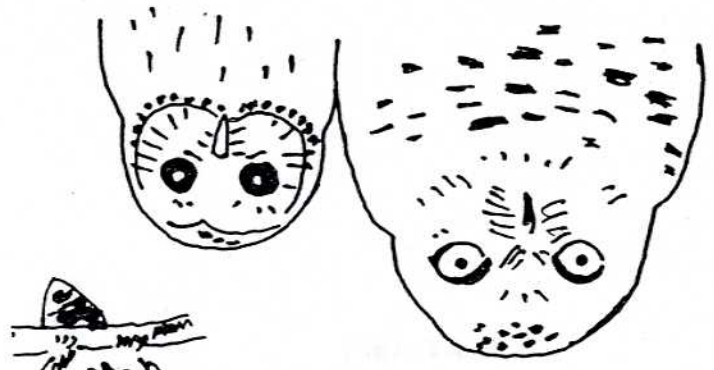
ハトらしいの小さなカラスで、こげ茶色の体に白い斑点が星のようについています。高山にすんでいて、ハイツの種子を好んで食べます。

くちばしがかたがついて、キツキツのように木やか種子などをついで割つてしまいます。

その他、ツグミ、エゾアカガシ、キジバト、クイナ、カラスカ、エゾウカサ、ムクドリなどたくさん、野鳥が群れをついて展示されていますのでよく観察してみてください。一度見て覚えてしまうと、野外でもその鳥を見つけることができるようになりますよ。



㉑野鳥たち



北海道には10種類のワクワウが分布しています。そのうちエゾワクワウ、シロワクワウ、トラノソウ、オオコノハス、ワシミミズクの種類をここで見る事が出来ます。

ワクワウの仲間ほとんどが夜行性で、ノネミなどの小動物を食べています。耳(聴覚)はとてもよく発達していて、ノネミの動くかすかな音を聞きわけています。

オオコノハスは小さなワクワウですが、旭山動物園では昭和57年に日本で初めて繁殖に成功し、毎年のようにヒナが育っています。ここに展示しているのは、動物園生れのオオコノハスです。

㉑ワクワウの仲間

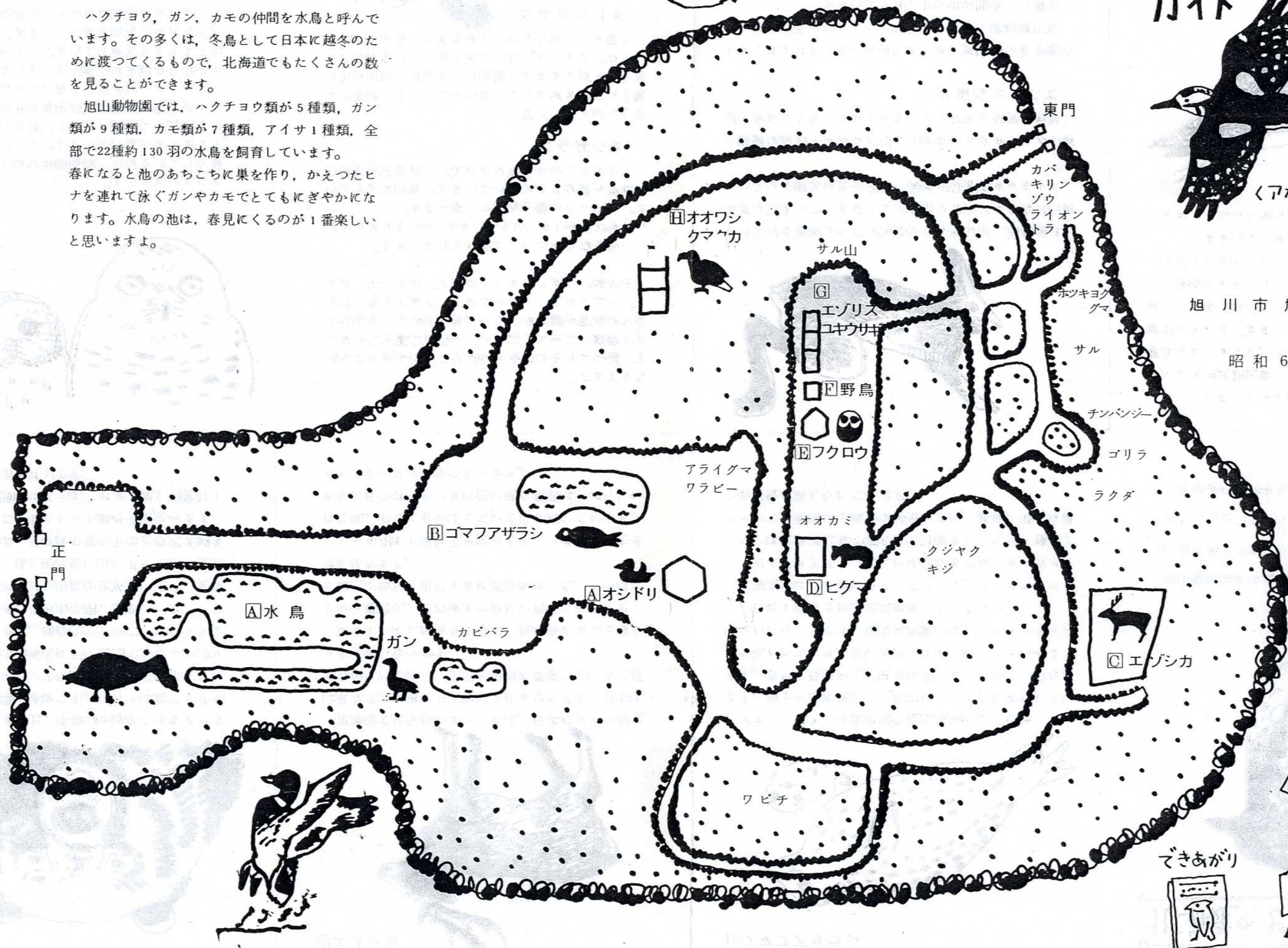
北海道の動物たち ガイドマップ



水鳥

ハクチョウ、ガン、カモの仲間を水鳥と呼んでいます。その多くは、冬鳥として日本に越冬のために渡ってくるもので、北海道でもたくさんの数を見ることができます。

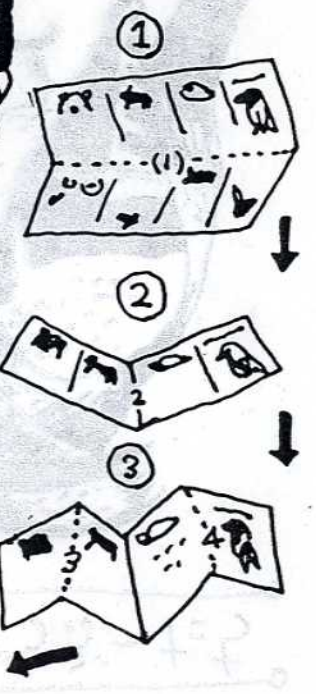
旭山動物園では、ハクチョウ類が5種類、ガン類が9種類、カモ類が7種類、アイサ1種類、全部で22種約130羽の水鳥を飼育しています。春になると池のあちこちに巣を作り、かえつたヒナを連れて泳ぐガンやカモでとてもにぎやかになります。水鳥の池は、春見にくるのが1番楽しいと思いますよ。



旭川市旭山動物園

昭和61年9月

〈ガイドマップの使い方〉





1986.4 ~ 1986.8
 • いろいろなことがあったね •

動物園日誌



- 4・8 アライグマ 6頭出産
- 9 コクチョウ 2羽ふ化
- 18 ゴマフアザラシ 1頭出産
- 4・26 カビバラ 2頭入園
- 27 昭和61年度開園
北海道産動物コーナー公開
特別展「陽気な仲間—チンパンジー—」
花木市(～5・5) (～8・31)
- 5・1 タイワンザル 1頭出産
アカゲザル 1頭出産(5/2, 5/7, 5/19)
- 5・5 HBCラジオ公開放送
「チビッコ歌まね合戦」
- 8 ヒグマの仔を保護(富良野市より)
- 11 ワンポイント・ガイド開始
- 14 アカハナグマ 5頭出産
- 16 ヒグマの仔, 鹿児島市平川動物公園へ
- 19 ドブラ(ロバ×シマウマ)公開展示
- 6・2 旭川医科大学, 生物学実習(6・3)
第114回旭山動物園飼育研究会
「ゴマフアザラシの繁殖」細矢係員
エゾシカ 1頭出産(6/4, 6/17)
- 10 オンドリ 3羽ふ化
アカリユウキユウガモ 1羽ふ化
- 15 インドガン 6羽ふ化
- 16 チンパンジー受入(共同繁殖—釧路)
ゴンゴウインコ他, 帯広動物園へ寄贈
- 6・22 講演会「動物園のお話」菅野園長
「チンパンジーの子育て」曾我部係員
- 26 オオコノハズク 1羽巣立ち
- 30 エゾリス 4頭富山市へ寄贈
日動水協北海道ブロック飼育研究会(7・1)
「新プレートの作成とその効果」阿部,
「ゴマフアザラシの繁殖」細矢, 発表
- 7・4 母と幼児のふれあい講座(神楽公民館)
- 13 カビバラの命名式
オス「カビ」命名者 小林あきさん 11歳
メス「バラ」命名者 阿部幸平君 9歳
- 14 第115回旭山動物園飼育研究会
「カビバラの飼育経過」牧田係員
- 15 特別展「旭山の自然」(～8・31)
- 17 エスキモー犬「アンナ」死亡(16歳)
- 20 第6回旭山動物園サマーフェスティバル
- 27 親子動物教室(～8・24) (～8・24)
- 8・1 世界120か国同時瞬間撮影写真展(～8・31)
動物ぬり絵作品展(～8・31)
- 4 第11回旭山動物園サマースクール(～8・6)
- 11 サマースクール研究発表作品展(～8・31)
- 12 1日体験セミナー(春光台公民館)
- 17 講演会「旭山の野鳥たち」南尚貴氏
「旭山の昆虫」佐々木恵一氏
- 20 ななかまど少年少女合唱団(ステージ開放)
- 24 キリン(メス)命名式
「タミコ」命名者 佐々木巨君 11歳



◎ワンポイントガイド

毎週日曜と祝日の11時から, 飼育係が自分の担当している動物についてお話しします。

おもしろい実験や, ふだん見られない動物の表情を見ることができます。

◎親子動物教室

夏休み期間中の日曜日10時30分から12時まで動物について学習します。いろいろな動物のからだの不思議がよく解ります。

飼育動物数(8月31日現在)

哺乳類	42種	175点
鳥類	81種	388点
は虫類	5種	25点
計	128種	588点

★おまたせしました。NO.6ができました。★

モユク・カムイ No.6

昭和61年9月15日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078

旭川市東旭川町倉沼

TEL 36-1104

編集人 菅野 浩

編集委員 小菅正夫

阿部

寛